

情報科サポートプロジェクト



高校が授業として行う情報教育に大学生が参加してサポートしています。生徒はもちろん、先生方、学生等、関係する全ての人にとっての学びの「場」を創出する取り組みです。

授業中の風景

活動の概要

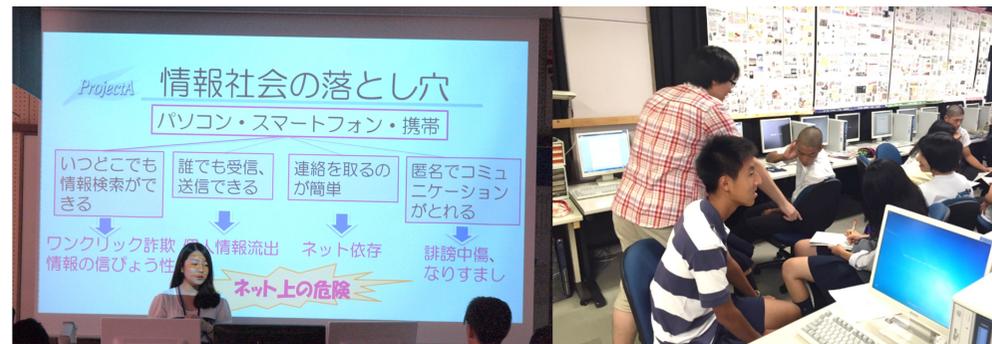
目的	生徒を主体とした情報教育の授業展開 / 高校生のキャリア観醸成
連携メンバー	大阪府、兵庫県の高等学校の情報科教諭 / 関西大学総合情報学部 久保田・黒上研究室
活動地域	各高等学校における教育現場
活動期間	2002年～(継続中)

連携の経緯

2002年、地域の高等学校から情報教育に関する授業支援の要請を受けたことをきっかけとして連携を開始した。この要請は、学習指導要領の改訂に伴い高等学校で情報科が新設されたことを機に浮上した。

解決すべき課題

- 情報教育の促進
- 高校生にとって身近なコミュニケーション相手づくり
- (情報教育に限らず) さまざまな学習機会の創出



実際に授業で説明を行う学生

グループワークでアドバイスをする学生

大学の役割

高等学校の情報科において、授業案の作成から実施まで、学生が授業全体をサポートしている。現在は全3校と連携しており、1校につき平均5人前後の学生が参画して活動を展開。高校のニーズや特徴に応じてオーダーメイドで授業を組み立てていくため、授業内容は各高校によって異なるが、その一例を以下に紹介する。

【ケース1】学生は2学期から本格的に授業に参画している。授業方針である「高校生への情報教育とキャリア教育の同時展開」を行うため、PCを用い、自らの将来についての長期的な計画を立てる授業を行う。高校生は2学期に書籍やインターネット等を用いて、大学や将来の職業を広く調査する。3学期には大学に関する調査結果を基にPCで資料を作成し、学年全体に向けてプレゼンテーションを行う。

【ケース2】年間を通じて授業の支援を行う。情報の取捨選択や情報機器操作、さらには著作権やSNS上での情報モラルについての講義を行う。情報モラルに関する授業では、高校生自らが書籍やインターネット等を用いて各項目について調査し、理解を深める。最終的には、何らかのテーマを掲げたプレゼンテーションを行い、調査結果を共有し学び合う。

以上のように、情報収集および情報機器操作の能力向上に加え、自分自身のキャリア観構築やプレゼンテーション技術の習得を目指して活動している。

成果

- 高校生が主体的に学ぶ授業を展開し、特に授業内に発表する機会を取り入れたことで情報の正しい取り扱い方のみならず、「伝える力」も養うことができた
- 進学や将来の職業に関して調査し共有してもらうことで将来意識の向上を図ることができた

今後の展望

- 生徒や教員に応じた新しい教材を提案し、情報社会で活かせる力を育てていきたい

研究者の紹介



総合情報学部
久保田・黒上研究室
(くぼた・くろかみけんきゅうしつ)

大学院の課題研究科目「ICTと新しい教育」を担当する久保田賢一、久保田真弓、黒上晴夫の3名の教員と大学院生がアクティブラーニングをテーマに活動する研究室です。フィールドでの体験を重視した学習活動を展開し、学部生と連携した活動を進めています。研究室には、国内外で地域の人々と協働した課題解決に向けた活動に取り組むさまざまなプロジェクトがあります。

現場の声



・池田直仁(3年生)

授業を通してどのような力を身につけて欲しいかを常に意識しながら教材づくりや授業実践に取り組んでいます。日を追うごとに様々な技能を身に付け成長していく生徒の姿を見て、この活動に大きな意義とやりがいを感じています。